

## 治療と仕事の両立支援に取り組む事業場の課題と展望～事業場インタビュー調査から～

○平林愛子<sup>1</sup>、森岡郁晴<sup>1</sup>、荒木美鈴<sup>1</sup>、堤梨恵<sup>2</sup>

1 和歌山産業保健総合支援センター、2 太成学院大学 看護学部

【目的】和歌山産業保健総合支援センター（以下、センター）は、令和4年に和歌山県内444事業場に対し、治療と仕事の両立支援（以下、両立支援）の取組に関するアンケート調査を実施した。その結果、両立支援について「知っている」と回答した事業場は248（55%）、社内取組や制度が「ある」と回答した事業場（以下、取組・制度あり事業場）は314（71%）であった。この結果を踏まえ、センターは両立支援の周知とともに、より実践的な支援を進めていく必要があると判断した。そこで本研究は、取組・制度あり事業場での現状や課題を明らかにし、両立支援を進めていく際の有用な情報を得ることを目的とした。

【方法】取組・制度あり事業場を対象に、事例提供の協力依頼文書を郵送した。事例提供が可能と回答があった15事業場及びセンターにかつて事例紹介があった1事業場の合計16事業場を対象とし、事業場担当者に半構造化面接を行った。インタビューでは、「取り組んだきっかけ（背景）」「基本的な考え方や方針」「うまくいった事例」「うまくいかなかった事例」「今後の課題や展望」について尋ね、回答は調査票に記録した。記載内容から一つのみをコードとして抽出し、意味内容の類似性や差異に着目して検討を繰り返し、類似性の高いコードを集め、サブカテゴリー、さらにカテゴリーを作成した。

今回は、センターが事業場に実践的な支援をする際の手がかりとなる課題と展望に焦点を当てて考察する。

調査協力の依頼文にて事前内諾を得ているが、インタビューの前に、研究の趣旨や方法、自由意思であること、ご協力いただけても特に不利益は生じないこと、個人情報に配慮した上で結果を公表することなどについて説明した。改めて調査協力の意思を確認し、同意が得られた後、インタビューを開始した。

【結果】課題は3カテゴリー、9サブカテゴリー、19コードにまとめられた。【制度を支える仕組みの機能不全】【制度運用の不具合】【制度運用の不公平】の3カテゴリーのうち【制度を支える仕組みの機能不全】では、[担当者の業務負担の増加][人員確保や環境提供への対応の難しさ][後継者がいないこと]の3サブカテゴリーがあげられた。展望は3カテゴリー、10サブカテゴリー、18コードにまとめられた。そのうち【体制・制度の整備】では[誰もが安心して働き続けられる職場づくり][不平等の解消][体制・制度の定着]などの5サブカテゴリーがあげられた。【対応力の強化】では、[両立支援コーディネーターの資格取得][個別の対応]が、【会社風土の醸成】では、[労働者を大切にする会社方針][スタッフが誇りに思える職場づくり]などの3サブカテゴリーがあげられた。【体制・制度の整備】の[誰もが安心して働き続けられる職場づくり]においては、「利用しやすい職場環境を整えていくこと」「利用者と提供者とのWIN-WINの体制を整えていきたい」があげられた。

【考察】取組・制度がある事業場では、制度を支える仕組みや制度運用に課題があることが明らかとなった。展望として課題を具体的に解決するための【体制・制度の整備】、制度を司る担当者の

【対応力強化】、両立支援の取組の基盤となる【会社風土の醸成】が示された。これらは、現状の課題を解決へと導くための不可欠な方向性であり、今後の支援の柱となることが示唆された。